



## 縄文あいす 「ひとは館」店長

安芸高田市で、夢を抱いて様々な活動に取り組む挑戦者たち。彼ら突き動かす原動力とその熱い想いに迫ります。

### 健全者、障害者関係なく お互いが思いやれる社会へ

社会福祉法人ひとは福祉会  
ひとは工房

出田 いでた  
ひろし 広志さん

少年野球の部員  
募集中です！

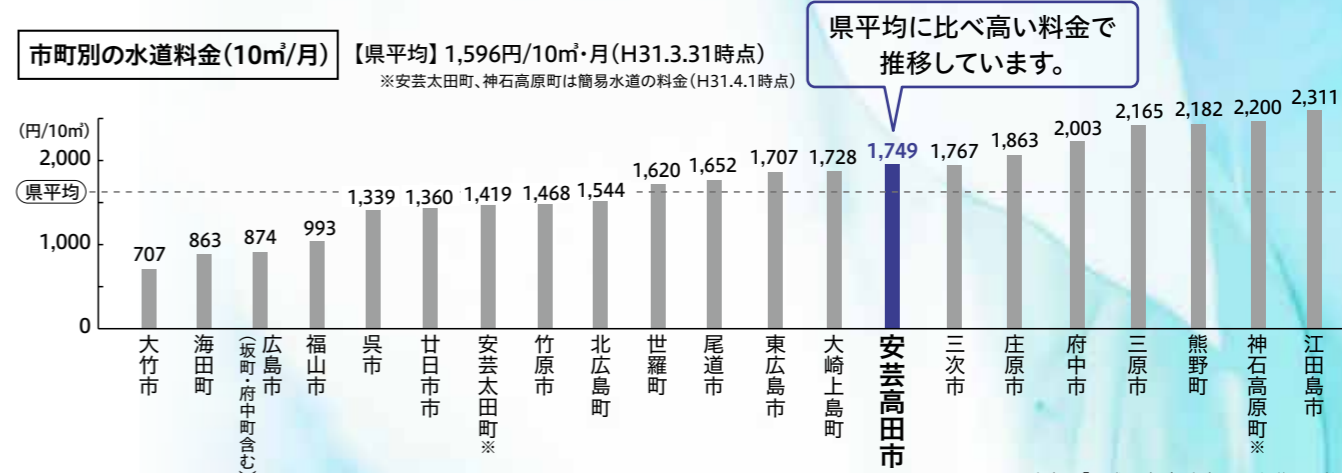


**趣味** 楽しみは月に2、3回のラーメンの食べ歩き。向原町の「らーめん長州」もお気に入り。  
**おすすめあいす** 向原酒造の地酒を使った「神の蔵」とチベットソルトを使った「くじらのおいしお」。  
**休日の過ごし方** プライベートでは2児のパパ。息子さん所属する少年野球チームでコーチを務めています。

**利用者の頑張りや伝わる**  
どこに出しても恥ずかしくない商品

三原市本郷町から県外の大学に進学し、卒業後に「ひとは福祉会」の職員として働き始めた出田さん。今年で19年目になりました。就職のきっかけは障害のある、いとこの存在。「とても仲良くしていたのに、自分が思春期を迎えたら、ひどい言葉をかけてしまったことがありました。そのことがずっと頭から離れなくて。将来について考えた時、福祉系の仕事に就いて彼を守る存在になりたいと思ったんです」と振り返ります。現在は、「縄文あいす」で人気の「ひとは館」や古民家を利用した食事処「寄りあい処 ささき亭」「ひとは農園」など5つの事業部からなる「ひとは工房」の責任者を任されています。「利用者さんたちは一生懸命、そして楽しそうに作業しています。商品や料理も、どこに出しても恥ずかしくないものばかり。障害があっても、こんなにおいしいものが作れることを知ってほしい。そしてお店や商品を通して、障害者への理解が広がってくれば」と出田さん。いつも考えていることは、作業を通して利用者さんがいかに輝けるかということ。いくら人気商品や新商品を作っても利用者が関わらないものは意味がないと言います。「これからも利用者さんがいきいきと活躍できるように、支援の仕方を常に工夫していきたい」と力を込めながら、「温かく見守ってくれる地域の方々にも感謝がいっぱいです」と顔をほころばせました。

## 安芸高田市の水道料金の現状

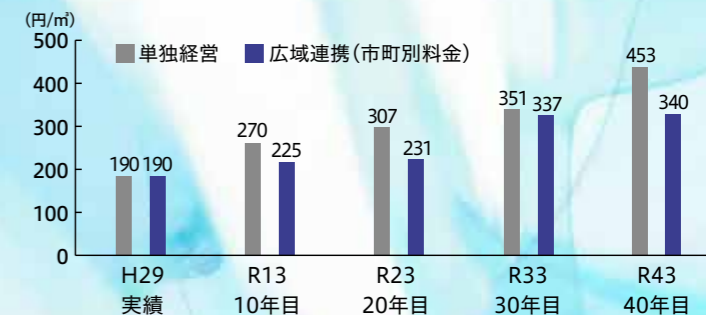


## 広域連携に 参画する場合のスケジュール

年度	令和2 (2020)	令和3 (2021)	令和4 (2022)	令和5 (2023)
検討組織	広島県水道広域連携協議会	企業団設立準備組織		
企業団設立・事業開始	6月 方針策定	1月 基本協定案策定 4月 基本協定締結	企業団設立準備 企業団設立許可 11月 企業団設立	4月 事業開始
施設の再整備など	調整、技術支援		国交付金を活用し、実行 ・令和3年度:概算要望 ・令和4年度:工事執行	

## もし広域連携に参画したら

単独経営でも広域連携でも料金の上昇は避けられない見込みですが、単独経営に比べ令和43年度時点で料金の上昇幅を26%抑制することが可能です。



- 参画する広域連携にメリット
- 水道料金を抑制できる。
  - 市町の枠を越えて連携することで費用が削減できたり、効率良く運営することができる。
  - 国の交付金が活用できる。

これからの水道事業は、給水収益の減少や施設の更新費用の増加、事業を支える人材・技術力の不足など、たくさんの課題を抱え、経営環境の悪化が懸念されています。

そのような状況の中、広島県は現状21市町が独自に経営している水道事業を連携して行う「広域連携」による経営基盤の強化を図ることが有益として、平成30年に「広島県水道広域連携協議会」を設置して議論を重ねてきました。令和2年6月、協議会で出された意見をまとめた「広島県水道広域連携推進方針」を策定。市では今後、「広域連携」参加について検討していきます。

# 水道の 広域連携 について考える